

II-4 参加都市発表

北九州市(日本国)



梅本 和秀 (うめもと かずひで)

副市長

発表テーマ

「くらしやすいまちづくりのための 北九州市の成長戦略」

100年以上にわたり工業都市として発展してきた北九州市は、1960年代に深刻な公害を経験したが、市民、産業界、大学、行政などが協力して公害を克服し、2011年にはOECD(経済協力開発機構)からグリーン成長都市のひとつに選定され、また、日本政府からグリーンアジア国際戦略総合特区に指定されるなど、グリーン成長をさらに推進していく環境が整備されつつある。現在、市では2013年3月に策定した新成長戦略のもと、産学官民が一丸となって市の経済発展に取り組んでいる。

その取り組みのひとつである「北九州スマートコミュニティ事業」では、(1)太陽光や風力発電、近隣の製鉄所から発生する副生水素を活用した燃料電池など、新エネルギーの導入、(2)様々な建物へのITを駆使した省エネシステムの導入、(3)地域節電所やスマートメーターの導入による地区全体のエネルギーマネジメントシステムの構築、(4)時間帯によって電気料金を変えるダイナミックプライシングなど、様々な実証実験を行っている。

また、市に蓄積した環境配慮型都市づくりの知見を生かし、官民が連携して相手国のニーズに応じて都市環境インフラに関わる技術やノウハウを組み合わせて、パッケージ化して海外へ輸出するという取り組みを考えており、具体例として、環境姉妹都市のスラバヤ市(インドネシア共和国)において、水道、廃棄物、排水処理、発電を含むエネルギーマネジメント技術、あるいは、市内企業の技術等、総合的な輸出を進めている。

このほか、新興国における環境配慮型都市づくりを支援するため、市がこれまで積み上げてきたノウハウや経験を体系的に整理したグリーンシティの方法論「北九州モデル」を作成した。今後は、この北九州モデルを使って、新興国の都市の課題とニーズに対応した解決策の提案やマスタープランづくり等にも協力していきたいと考えている。

バンコク都(タイ王国)



Vallop SUWANDEE (ヴァロップ・スワンディー)

筆頭顧問

発表テーマ

「バンコクの暮らしやすい都市づくり」

バンコク都知事は、都の発展のため6つの主要政策を立て、安全な都市、幸福な都市、清潔で緑の多い都市、生涯教育を提供する都市、チャンスをつかめる都市、ASEAN(東南アジア諸国連合)のハブ都市となることをめざしている。

さらに、都は2009年から2020年にかけての生活の質を高めるための施策を考案した。都では都市化の進展につれ、高齢人口が増大し、高齢化社会に近づいている。そのため高齢者が暮らしやすい都市づくりのために特に力を入れる必要がある。本日は、高齢者向けの病院、在宅医療、高齢者向けの交通手段の3点に絞ってご紹介する。

第一に、タイで初めての高齢者用病院をバンクンティエンという地域に建設中である。300の病床を備え、健康増進、疾病予防、治療、リハビリ、長期ケアなどに力を入れる。大学の医学部と連携し、高血圧、糖尿病、心臓病、脳卒中、うつ病、呼吸器系疾患、リウマチ、アルツハイマー病、パーキンソン病などの治療にあたる。総建設費は1億100万USドルにのぼるが、都の負担は半分以下であり、残りは市民の寄付でまかなわれる。

第二に、在宅医療のため、都の保健所所属の約200名の医師と約1,000名の看護師からなるチームを特に高齢者が暮らす家庭に派遣している。治療のほか、リハビリや介護者の指導、疾病予防なども実施している。さらにBMA EPI NETというソフトウェアを開発し、都内の全世帯の医療記録を管理している。訪問の都度、看護師または医師が内容を更新し、感染症の発生時には、直ちに都に通報されるため、早急な対応が可能になる。

第三に、自家用車がなく、公共交通機関やタクシーも利用できない高齢者向けに、都は車両を購入した。都への電話連絡によりサービスが利用可能になる予定である。

今後も長期的な視点を持ち、バンコクを特に高齢者が暮らしやすい都市にしていきたい。

II-5 意見交換

議長: 基調講演を受けて、19都市から各都市の特性に応じた取り組みをご紹介いただいた。各都市の発表を聞いての意見や提言、感想など、ご発言をいただければと思う。

基調講演者: 本日の会議では、公害に代表される問題を克服した事例、課題に見事に対応した事例、都市経営のビジョンや戦略など、各都市の貴重な情報が共有された。このような情報は、いずれ他の国や都市が直面しなければならない課題への対応に参考になるものである。ぜひ何らかの形でレポートし、ここに出席していない各国の都市関係者も共有できるようにしてほしい。現在の激しい都市化への対応に汲々とするだけでなく、都市化が終わった後に生じる課題も事前に考慮して対応することが、効率的な都市経営だと思う。

参加者: 今のコメントを聞き、追加的にお話し申し上げたい。大気汚染物質は風に乗って長距離を移動し、汚染水も河川や海洋を通じて他国にまで影響を及ぼすなど、環境問題は国境を越える。このため、このような都市サミットで、環境問題を克服した経験をもつ都市のノウハウを共有したい。また、環境保護について共同宣言文を作成してはどうか。

参加者: 本日は、各都市の住みやすい都市づくりの政策を学ぶことができた。総括すると、住みやすい都市づくりには、より環境にやさしい都市にすること、市民が便利に安全に暮らせるようにすること、また一方で、経済を活性化し雇用を創出していくということも必要であり、相反する課題を含んでいる。たとえば我が国では、高齢化が急速に進む中、健康な長寿のためには医療のほかに運動も必要だということで、多くの都市で、森を増やすなどしてウォーキングの場所を市民に提供することが盛んである。このため、都市開発を行う際には、たくさん緑地空間をつくる必要があるとされている。

参加者: 各都市の発表を聴き、市民が暮らしやすさを実感できる都市づくりには、国家でなく都市の力が大きいと感じた。ところで、高齢化に関し、地域の絆づくり、地域による見守りの新たな取り組みを紹介したい。高齢化に伴って一人暮らし高齢者が増えており、家の中で急病に倒れたり死亡したりしても、すぐに気づかれないことがある。このため本市では、近所の住民の異変に気付いた場合に通報してもらおう電話番号を設けた。また、12月からは、認知症等による徘徊で行方不明になった高齢者の早期発見につなげるため、協力者として登録している市民に捜索協力の依頼メールを配信する取り組みも開始予定である。